

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の行事などになるべく参加するように努めている。		地域との交流に努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域との関わりを作っている。例) 商店、スーパー、美容院、電気店、牛乳屋、農家と契約してお米を購入している。		今まで以上に地域との交流方法を考えていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族には入居時、説明している。来訪者には、わかりやすいように、玄関に掲示している。		地域の人々が来訪しやすいように考えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	取り組もうと試みているが、立地条件が悪く近隣との付き合いが困難である。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに御利用者と共に積極的に参加し、地元の人々と交流するように努めている。		地域の行事で参加できるものは積極的に参加したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない		直接、役にはたっていないがご利用者の方々と車椅子で町に出て行くことで、適切な支援があれば穏やかに生活できることを知ってもらえるように地域の皆さんに働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	生活歴の情報を得ることで、御本人をよりいっそう知ることができた。又、そのことにより、ケアプランが充実してきた。		御利用者の方の生活が、良いものになるようにひとつづつ、改善を重ねていきたい。昨年の指摘の「ミニ特養化」は改善する意思はない。GHの趣旨として間違っているかもしれないが、これから先も人間の老いを可能な限りここで見守りたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告、事故後の対応策、その後の経過、GH内の行事などを報告している。地域の情報、一般的なアドバイスもいただいている。		「介護現場の常識」は「世間の非常識」にならないように、周囲の方の意見に耳を傾けていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	空室状況のやり取りは行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には参加しているが、詳細までは職員一人ひとりまで行き届いていない。		職員全員が、相談を受けた時に関係機関を紹介するところまではできるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し伝達講習をしている。疑問などをその時に話し合ったりしている。		職員全員が、プロとしての意識を持ち仕事に従事する。また、勉強会などを活用し、知らないうちに虐待につながっていないかを検証する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明をしている。疑問、不安に関しては納得してから契約を行う。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の会話を通し、御利用者の意見を聴いている。玄関に「ご意見箱」を設置している。</p>		<p>意見を参考にし、改善に努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族が来所された時に近況報告をしている。3ヶ月に1度情報誌を出し、近況を記載している。運営推進会議の報告書を御家族に渡している。体調に関しては必要時、連絡をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族が来所された時に、こちらから声をかけて意見などを聴くようにしている。玄関にご意見箱を設置している。</p>		<p>意見を参考にし、改善していく。御家族が何でも言いやすいような雰囲気作りに努める。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>どの職員でも、意見が言いやすい環境になっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて、勤務調整をしている。例) 外出時、行事の増員など。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴れ合い(職員間、御利用者も)、を防ぐために異動を実施している。異動による、ダメージが御利用者にあるかどうかは不明。</p>		<p>以前は定期的に異動をおこなっていたが、間隔を、長くしたり御利用者の状況を十分に配慮して行うようになった。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集、採用に年齢、性別の制限はない。各個人の能力の発揮は十分にできていない。</p>		<p>個人の得意分野などで責任を持って、実力が発揮できるような環境作りが必要。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>研修会に参加したり、カンファで触れるようにしている。</p>		<p>カンファ、勉強会で触れるようにし、常に意識していく。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数などに応じた研修に参加している。資格取得のための、勤務希望は取り入れている。</p>		<p>外部研修に参加できるように配慮していく。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協議会に加盟しており、研修会で交流している。</p>		<p>近隣のGHとの交流を計画中(GH協議会を通して)</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>希望休はなるべく、組み入れている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	モチベーションアップのために研修会に参加しているが、なかなか持続できない。		自分の行っている介護に対し「このままでいいのか?」「これでいいのか?」と振り返って、考えたり、話し合ったりする場を作っていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御本人のところに訪問し、話をする機会を作っている。		御本人が不安を解消し御入居できるように、必要に応じた訪問をする。(資料、写真なども持参し、視覚にも訴える)
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族の不安、疑問などは解消できるまで、じっくりと話をするようにしている。(何回でも)		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	GHの空き情報の提供、ディケア、ディサービス、老人保健施設の情報も伝えている。		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	御家族が納得(ほんとうは御本人の納得も必要だが)されてから、入居するようにしている。必要時は、体験入居も可能。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、介護者ではあるが、生活のパートナーとなるように心がけている。		一方的な関係ではなく、御利用者の方と共に生活をする姿勢を維持する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に2回、御家族との親睦会を行い、情報交換の場としている。(生活歴などの追加を聴くことができる) 御家族を交えての外出も行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年に2回、御家族との親睦会を行い御家族とのつながりを深めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所された時には、ゆっくりと過ごしていただけるように、場所を提供したり配慮している。 馴染みの場所にこちらから出て行くことはほとんどない。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴の御利用者に対しては、職員が間に入り御利用者間の円滑なコミュニケーションが図れるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、自宅の花などを持って立ち寄ることがある。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に御本人の使っていた家具などを持ち込んでもらうようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から情報収集を行い、職員間で共有するようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録物、カンファレンスを通して職員間で常時、情報交換を密に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴やアセスメント表を使いケアプランの作成をしている。御家族、御本人からの意見も反映させている。		御本人の希望が今以上に反映できるようにしていく。(特にご自分から、訴えが出来ない方の希望を探る)
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、ケアプランの評価を行い3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っている。状態の変化などがある時(退院直後など)はその都度、ミニカンファを行い変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノートを活用し「報」「連」「相」を密に行うように心掛けている。		職員の気づきを記録物に今以上に残すようにして、情報の共有化を向上させる。そしてケアプランに「その人らしさ」を出していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に何もしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防火訓練の時に消防署と一緒にしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はしていない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体は病院だが入居時に主治医の変更は必要ないことを説明している。母体以外のかかりつけ医の場合はGHの看護師が、先方と連絡を取り健康管理を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力病院との連携はある。必要時、受診している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師が1名おり、御利用者の健康管理を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>常勤の看護師が病院との連携を密にとり状態把握を行い、早期退院に努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>常勤の看護師が、主治医、家族と話し合いをしながら方針を職員に伝えている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご家族、主治医と話し合いをしながら、当GHでできるところまでは行っている。最期の看取りまでは、当GHでは対応していない。状態に応じて、最終的には入院になる。このことは、ご家族にも十分、説明している。</p>		<p>重度化、終末期の経過は一人ひとり違うので、職員間で意見交換を十分に行い職員も状況を納得した上で対応できるようにしていく。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人の生活のパターンを壊さないような対応に努める。そのためには、生活歴の把握やご本人の意向を引き出すようにする。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応に関しては、勉強会やカンファで取り上げて、意識付けをしている。個人の日々の記録に関しては、ご家族に開示しているためリビングに置いてあるが、職員の目が届くところなので、不必要に個人情報が漏れることはない。</p>		<p>言葉かけが十分とはいえないので、お互いに気づいたときには注意ができるような職場環境にする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の会話の中から思いや希望を探るようにしているが、まだまだつかみきれていない。ご本人が今の生活にどの程度、納得しているのかも、把握が不十分。</p>		<p>ご本人の気持ちが、表れるような対応を行い、希望や不満をつかめるようにする。生活歴をもとにした、会話を多く持つようにする。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>必要な「業務」は時間を短縮する方法を考え、ご利用者の希望に添えるようにしているが、まだ、職員の都合で動くことが多い。</p>		<p>ご本人の希望を優先できるように、職員の業務改善なども行っていく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>同敷地内の老人保健施設内の美容室に行ったり、近隣の美容室に行ったりしている。ご本人の望む店に行くことは難しい。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>状態に応じて食事の準備に参加している。例)たまねぎの皮やふきの筋をとる、野菜を刻む、盛り付けをする、味見をするなど。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>あまり実施できていない。</p>		<p>おやつを一緒に買いに行くことや、希望の飲み物を準備することなどから、取り入れていく。</p>
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>ご利用者の体型や尿量などを考慮し、それぞれにあったパットを使っている。</p>		<p>おむつは個人負担のため、排泄のパターンの把握によりいっそう努め、おむつの使用量の削減も考えていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯に制限があるためあまりできていない。		時間帯の制限があっても、入浴そのものがゆっくりとくつろげるようにしていく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入浴後や外出後など、御本人の状態に合わせて自室での臥床を取り入れている。また、リビングにはリクライニングの椅子を置いてありそこでも疲れた時はくつろぐことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御利用者の重度化のため、現在はあまり実施できていない。趣味(歌など)を取り入れるように努力している。また、短時間の散歩を頻回に行い季節を感じて気分転換を行っている。		役割を見つけ、日々の生活に張り合いを持てるようにする。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物や御家族におみやげを購入する時は、自分の財布を持参している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時はなるべく散歩に行くようにしている。一人ひとりの希望に添うことはできていない。		御利用者の方から外出の話がでるような働きかけと、その希望に添えるような職員の体制作りが必要。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の計画のときに皆さんに聴いているがほとんど、希望がでない。そのため職員間で季節感を取り入れながら外出の計画を、立てている。		御利用者の希望がでるような話しかけをする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はリビングの見える場所に置いてある。希望があればいつでも援助可能だが現在電話の使用はない。手紙のやり取りもない。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間(面会)は特に制限はしていない。「いつでもおいでください」と説明している。訪問時には居室で話したり、リビングで他のご利用者の方を交えて話しをされたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が勉強会で報告し、「現場ではどうなのか？」を話し合い意識付けを行っている。		カンファ、勉強会など機会があるたびにテーマとして触れていく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	トイレのみ鍵がある。玄関は日中は鍵をかけずチャイムで対応している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、歩行される方はさりげなく所在確認を行っている。夜間帯は、定期的に巡室を行い、安全確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤類は目につかないところに収納している。はさみ、爪きりは見えるところにあるが使用時は職員が援助する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故防止に関することは、ケアプランに反映して職員間で共有できるようにしている。</p>		<p>危険回避のために、「ひやりはっと」の情報をを活用していく。</p>
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>心肺蘇生法の伝達講習を行い緊急時に備えている。 応急手当、初期対応のマニュアルは作成している。</p>		<p>今後も定期的に緊急時の対応などは、勉強会で実施していく。</p>
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>出火場所を色々と想定し避難訓練をおこなっている。 地震、水害については訓練ができていない。地域の消防団とは、連携あり。</p>		<p>水害、地震についての対策を考え、実施する。</p>
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>ケアプランにも反映しているがその都度、リスクは御家族に説明している。また、御家族からも提案を聞いている。</p>		<p>予測されるリスクは職員間で共通の認識となるように、カンファなどで情報交換をしっかりと行う。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>申し送りを確実にやり体調を常に確認し対応している。 必要時は病院受診を行う。</p>		<p>異常の早期発見に努め、早めに対処していく。</p>
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各個人の内服薬は個人記録に記載している。 例) 軟便傾向の時など、NSに報告し下剤が正しく服用できるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、おやつ時をとおり、水分摂取の声かけをしている。おやつ時には、コーヒー牛乳など牛乳を加えた飲み物を使っている。		身体を動かして(体操や足踏みなど)、便秘の予防に取り組んでいく。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 歯間ブラシを使い仕上げの介助を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量が少ない時は御本人の好きな物(お菓子類、パンなど)で補食を行っている。記録にも残し、職員間でわかるようにしている。また、自力摂取が維持できるように、器、食材を考慮している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの励行を徹底。 感染症のマニュアルがある。		マニュアルはあるが、もし感染者がでたらそのつど、対応の方法を職員間に知らせるようにする。(各人に対応の方法が多少、違うこともあるので)
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回の冷蔵庫そうじ。その時に食材の期限を確認する。台所にアルコール消毒用のスプレーを置いている。まな板、ふきん類は塩素系のハイターで消毒している。 食器類は乾燥機を使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家から離れているので、親しみを持ってもらうにはどのようにするか？検討中。		道路に面した部分につつじなどを植えて季節の花を楽しんでもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然体を重視し、物が雑然とある。(御利用者が歩くのに支障がないようにはしているが、四角四面には片付けてはいない) 季節感を出すために散歩の時の野草を飾ったり、装飾品を置いたりしている。		季節感や、色々な物を使ってわかりやすい演出をしていきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分で動ける方がほとんどいないので、ソファに座る場所などは職員間で意見を出し合っていて考えている。(自分で訴えることが出来る方以外)		御利用者同士の関係を職員が把握して、お互いにくつろげる環境作りを心がける。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具を自宅から持参してもらっている。また、御家族からその家具についての、御本人のエピソードなども聴くようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン、床暖房を使い室温は調整している。空気清浄機、加湿器なども使っている。 温度計、湿度計もリビングに設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで、歩行、車椅子の自走に支障がないようになっている。洗面台の高さも3種類あり、その人に合った場所を使い、できる部分は自分で行うように支援している。		残存機能の維持のために「できること」「できないこと」を職員が把握し、援助の方法を個別的に考えていく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても大丈夫と覚えてもらうために、自然な対応を行っている。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭、中庭は構造上の問題で御利用者がひとりでは、出る事ができない。		裏庭、中庭とも花や野草があるので、工夫をして出て行って楽しむようにしたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)